

2021年の振り返りと、 寅年の展望

2021年も怒涛の如く過ぎ去ろうとしている。コロナ禍にあって、誰もが大きなり小なりその影響を受け、行動を制限される年となってしまった。婚姻数も出生数も大幅な減少がみられ、我が国の将来においても由々しき事態だ。それだけでなく、少子高齢化の中にあつて、このまま進めば、一般的な想定より一気に10年前倒しで進むことになりかねない状況とも言われている。とりわけ、秋田県少子高齢化にあっては47都道府県中の第1位と、あまり歓迎できない1位だ…。このまま手を拱いている訳にはいかない。

しかし、コロナ禍がもたらしたものはマイナス面だけではない。2020年卒業の高校生の就職率は、対前年比を大きく上回ったようだ。秋田県教育委員会は「新型コロナウイルスの影響で地元志向が強まったことも一因」とみている。首都圏への人口集中の問題も取りざたされ、地方への移住定住の増加が予想されており、改めて地方の魅力が見直されることを期待したい。

来る2022年は寅年。強い虎にあやかり、コロナを克服し日常を取り戻したいものだ。「虎穴に入らずんば虎児を得ず」ということわざがある。「虎児」とは虎の子のことを言い、「虎の子の1万円札」などと非常に得がたいものの例えとされていて、「虎が住んでいる穴に入らなければ虎の児を得ることは出来ない」ということから、「時にリスクを冒してでも挑戦しなければ、大きな成果や成功を収めることは出来ない」ことを言っている。虎は繁殖力が弱く、子どもが少ないがゆえに愛児性が強く、「虎の児」として大切に育てるといふ。同じネコ科でありながら群れて暮らすライオンとは、その点がかなり違う。人様(ひとさま)も、いつの間にか、大切なものの例えとして「虎の子」と呼んでいる。「虎の子の1万円札」は大切に、という具合に…。かなりこじつけた様だが、2022年は虎の子を大事にしつつ、家計の健全化に向けて心機一転を図り、新年の志を新たに「トライ」したいものだ…。

Vol. 151

知恵袋

生活

生活に
何かと役立つ
連載コラム

つぶやきがんちゃん



つぶやきがんちゃん

齋藤 廣勝
(さいとう ひろかつ)
株式会社トータルライフサポート
代表取締役

- ・CFP®サーティファイドファイナンシャルプランナー
- ・1級ファイナンシャルプランニング技能士
- ・日本商工会議所 年金・退職金等認定講師
- ・住宅ローンアドバイザー
- ・金融広報アドバイザー

ゆく年くる年

大晦日から元旦を境にして、終る年と、新しく始まる年を「ゆく年くる年」と言う。が大晦日から新年にかけて、除夜の鐘をバックに放送されるテレビ番組のことと思われる向きも少なくないが、自身の問題として振り返るのも良いかもしれぬ。除夜の鐘(じよやのかね)は、年末年始に行われる年中行事の一つ。12月31日の除夜(大晦日の夜)の深夜0時を挟む時間帯に、除夜の鐘は多くの寺で108回撞かれる。人間には108の煩惱があるとされ、この煩惱を除夜の鐘で祓うとされているが、諸説あるようだ。

「108の煩惱とは」煩惱の種類を調べてみると、眼(げん)・耳(に)・鼻(び)・舌(ぜつ)・身(しん)・意(い)の六根のそれぞれに好(こう)・気持(き)が好(こう)・悪(あく)・気持(き)が悪い・平(へい)・どうでも)があつて18類、この18類それぞれに浄(じよう)・染(せん)・きたない)の2類があつて36類、この36類を前世・今世・来世の三世に配当して108となり、人間の煩惱の数を表す。

私の煩惱を祓うには、108回では足りないような気がするなあ…。そう、2019年の小話で面白いものがあつた。住職さん今年の除夜の鐘は107回のようにすが…!そう、後1回はレバノンに逃亡しました。ゴッソ…失礼しました。何れにしても1年の区切りとして、ゆく年を振り返り、この1年を総決算することは、明日を生きる上でとても大切な。検証もせずにこの先をただ漫然と暮らすことは、学習効果が働かないというものだ。そもそも、皆さんは新年に「今年の目標」なるものを作成していただろうか?「ぼーっと生きてんじゃねーよ」と言われるようなことはないだろうか?「吾輩も偉そうなことは言えないが、立てた目標を達成するのは至難の業だ。『言うは易し行ふは難し』なのである。それにも増して、大切なのは目標自体を立てるか否かだ。

保険と暮らしの相談センター

“ご加入中の火災保険は大丈夫!?”

近年、局地的な豪雨や落雷、竜巻、異常な大雪などにより家屋や家財の損害が増えています。現在ご加入中の火災保険でしっかり対応できますか?ぜひ補償内容をチェックしてみましょう!!

お気軽にご相談ください。

株式会社 トータルライフサポート

〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22

● 営業時間 / 9:30~18:00
(土・日・祝日は9:30~17:00)

● 定休日 / 水曜日

TEL 018-827-7611

FAX 018-827-7610

URL http://tis-akita.co.jp



詳細はホームページでも
ご覧いただけます。

目標すら持たずにぼーっと過ごしているのは論外だ。ゆくゆく年を、「家族全体としての目標」と「各々の目標」を立てるための話し合いを持つ日にするの、良いのかもしれない。家族全員に、「この日はみんな各々の来年の目標を立ててくるように」と告知しておくこともひとつだ。そうすることによって、次の年にはその目標を達成した理由、達成できなかった理由を検証することが出来るというものだ。目標を立てるといことは、夢の実現に向けた生き方をする事であり、自分にプレッシャーを与える事でもある。いずれにしても目標があったからこそ検証である。

目標を達成する人と出来ない人

その違いは何処にあるのだろうか？貯蓄だったり、学力だったり、資格取得だったり、欲しいものを手に入れることも、その成否にはたまたま運がよかったとか偶然ということ、ほぼほぼないとしてもいい。達成できた人も失敗した人も、それぞれが特に意識していなかったとしても、結果の違いの背景には、意識も行動も異なっている事が殆どだ。某テレビ番組に登場する某ドクターの、「私、失敗しないので」という言葉自体には、強い意志と何らかの根拠に裏打ちされたものが見えてくる。小生の若かりし頃、禁煙に挑戦中に、周りに対しては「休んでいる」と、失敗した時の逃げ道を残したこともあったものだ。私失敗しないので」と言いたいのだが、煩惱だらけの私には、なんとも怖くて言えない。皆さんは言えますか？

覚悟

メジャーリーグのエンゼルスに所属する大谷翔平選手は、投手として、打者として活躍する「二刀流」の選手として世界を驚かせた。彼の今日の活躍は、どのようにして成し遂げられたものだろうか？社会人野球経験者の父とバドミントン選手の母を持ち、スポーツ一家の3人兄弟の末っ子とし

て生まれた。193センチ・92キロの恵まれた体格を持ち合わせている。ではこれまでの成果はたまたま生まれ持った体格や才能だけによるものだろうか？否、これだけでないことは、皆さんも承知のことと思う。いくら優れた環境や性能の良い道具・機会が与えられたとしても、一つの優位性に過ぎず、それをどう活かすかにかかっている。大谷翔平選手が高校一年生の時に使っていた目標達成シート(マンダラチャート※左図)を、ご存じだろうか？高校時代の監督、佐々木洋氏からの教えにより作成したこのシートは、強い「目標夢」を中心に置き、周囲9×9の合計81マスに細分化した目標を書き込んだものだ。その中心には、「ドラフト1位」が鎮座し、それを達成するため必要な8つのキーワードである①体づくり②コントロール③キレ④スピード⑤変化球⑥運⑦人間性⑧メンタルが周囲を囲んでいる。さらに8つのキーワードそれぞれを達成す

		体づくり		コントロール				キレ	
			↑		↑				↑
きり目標を持	一喜一憂しない	頭は冷静に心は熱く	体づくり	コントロール	キレ				
ピンチに強い	メンタル	雰囲気になれない	メンタル	ドラ1 18球団	スピード 160km	→	スピード 160km		
波をつくらない	勝利への執念	仲間を思いやる	人間性	運	変化球				
感性	愛される人間	計画的	あいさつ	ゴミ拾い	部屋掃除	↓			
思いやり	人間性	感謝	道具を大切に使う	運	審判さんへの態度		変化球		
礼儀	信頼される人間	継続力	プラス思考	応援される人間になる	本を読む				

図：マンダラチャート

るために必要な事柄がその周囲を囲むという具合だ。その一部、技術面を除いた「運」「人間性」「メンタル」の3つを図の中に抜き出してみた。これを見れば、彼が手にした成功が単なる偶然でないことが理解できる。彼は「運」までも自らの手で引き寄せていたことを伺わせる。この中に書かれた一つ一つが、彼の試合の中で実践されていたことが見えてくる。私自身、野球通ではないが、このチャートを見てよく彼の凄さが分かったような気がする。またまた脱線した感はあるが、目標を達成する人と出来ない人の違いが、達成に向けた覚悟の違いにあるような気がしてならない。

正月を迎える

正月(しょうがつ)を調べてみると、各暦の年初のこととある。日本では、1月1日の元日のみを国民の祝日としているが、少なくとも3日までの3が日は事実上の祝日となる。かつての正月は、お盆と同じく、祖先の霊を呼

び、慰霊する行事だったが、次第に分画し、新年のお祝いと1年の無病息災を願うものに変わってきたという。昭和20年(1945年)ごろまで、日本では人の年齢を「数(かぞえ)年」で計算していた。そのため正月になると、全国民が一斉に年をとるので、正月のことを「年取り」と呼ぶことが定着している。私の幼少の頃にあっても「年取り」という呼び方をしていたが、今の若い人達には訳が分からな気がする。数(かぞえ)年」というものは、おぎゃくと生まれて1歳で、正月を迎えて2歳になる。12月生まれともなると、生まれた翌月には2歳という具合だからややこしい。誕生日を起点とする満年齢が当たり前の今日においては、その存在すら影を薄めてしまった。今更、数え年を使うことはないものの、正月を迎えるにあたり、そんなこともあったと覚えておいていただきたい。文化的には旧年が無事に終わったことと新年を祝う行事であり、正月飾りをして、正月行事を行ったり料理を食べたりして、盛大に祝うものだが、お正月らしさというものは年々薄れていくばかりだ。正月を迎える服装や飾りやお祈りなどの「厳かさ」も「しきたり」も、はたまたお正月を迎える日本人の心までも、どこかに行ってしまったように淋しい限りだ。ましてや昨年の正月はコロナ禍にあつて、初詣などの参拜までもが自粛せざるを得なかった。秋田県内は、日常を取り戻しつつあるように思えるが、オミクロンの影が忍び寄る中であつて、今年の正月は果たして如何に迎えることが出来るのだろうか…。くる年を、これまでに成し得なかったことにチャレンジする年として位置づけ、覚悟をもって迎えよう。

来月号は

中断した金融リテラシー「生命保険編」に戻ることにする。